

会 社 名 株式会社 中山製鋼所
 代 表 者 代表取締役 神崎 昌久
 本 社 所 在 地 大阪市大正区船町一丁目1番66号
 コード番号 5408
 上場取引所 東証、大証 各1部
 問合せ先 責任者役職名 取締役経理部長
 氏 名 伴 隆彦
 TEL (06) 6555 - 3035

平成14年度の決算見通しと期末配当に関するお知らせ

当社の平成14年度決算の見通しと期末配当につきまして、今般、その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

記

[1] 連結及び単独決算見通しについて

(単位：億円)

	連 結 決 算				単 独 決 算			
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
今回見通し	1,240	40	5	34	658	2	17	26
前回見通し (平成14年11月22日)	1,225	45	8	14	645	5	16	4
< 参 考 >								
平成13年度実績	1,232	22	55	212	614	46	67	219
平成14年度上期実績	591	3	15	3	296	15	22	3

当期のわが国経済は、輸出は堅調に増加しているものの、国内における民間設備投資・公共投資と個人消費の低迷が継続しており、景気は依然として厳しい状況にあります。

当社の事業の大宗を占める鉄鋼事業につきましては、国内の鋼材需要が引き続き低調に推移するなかで、業界をあげて減産を強化し需給改善に取り組んでおりますので、鋼材販売価格は着実に改善してきております。一方で、製鋼原料であるスクラップ価格が予想をはるかに越えた大幅な高騰を続けていることなどで収益に大きな影響を及ぼしていますが、全社を挙げて最大限の収益改善対策を実行しておりますので、鉄鋼収益はほぼ前回見通しを確保する見込みです。

その他の事業（発電・エンジニアリング・不動産・化学）につきましては、厳しい事業環境のなかでいずれの事業も引続き黒字収益を確保しております。総じて、経常損益は、単独では17億円の経常損失、連結では5億円の経常利益となる見通しであります。

特別損益につきましては、当3月20日に公表いたしました卸電力事業の子会社2社の株式譲渡益（約34億円）を特別利益に計上する一方で投資有価証券の評価損などを特別損失に織り込んでおりますので、当期純利益は単独では26億円、連結では34億円となる見通しであります。

一方、財務面につきましては、当社グループの喫緊の課題であります有利子負債の削減は、上述の卸電力子会社の譲渡などに伴いまして、次の通りとなる見通しであります。

有利子負債の削減

(単位：億円)

	平成13年度末	平成14年度末	削減額
連結	1,376	1,026	350
単独	889	854	35

[2] 期末配当について

当社は、新中期経営計画（平成14年度～17年度）に沿って、抜本的な生産構造の改革など事業の再構築により安定した収益を確保することと、有利子負債の削減など財務体質の改善と一層の健全化を図ることを推進している途上でございます。

また、足下を含めて来期も予断を許さない事業環境が続くと見通されますので、まずは全社を挙げて一段の経営努力を重ねて所期目標を着実に前倒しで達成することが、株主の皆様にお応えするための第一義と考えている次第でございます。

期末配当につきましては、このことを厳しく受けとめまして、誠に遺憾ではございますが、実施を見送らせていただく案を株主総会にお諮りすることを本日開催の取締役会で決議いたしました。

当社といたしましては、グループ各社と一体となって経営体質の強化に邁進してまいり所存でございますので、諸事情ご賢察のうえ、なにとぞ引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上